

09年10月25日

視察報告書

日本共産党大分市議団
文責 福間健治

視察先—第4回全国市議会議長会主催研究フォーラム

視察場所—金沢市

視察目的—地方政治の今後のあり方と議会活動の活性化について

金沢市で、第4回全国こう市議会議長会主催の研究フォーラムが開催され、来年大分市で開催されることもあり、色々な角度から、地方政治と議会活動を振り返り、今後の活動に生かすために、党議員団で参加した。

(研修フォーラムの内容)

研修フォーラムは2日間にわたりおこなわれた。

初日は、丹羽宇一郎氏の「日本再生の起爆剤—地方分権改革—」と題しての基調講演と、「地方議会はどうかわるべきか—首長と議会の新たな関係」と題して、パネルディスカッションがおこなわれた。

二日目は、課題討議として、「議会基本条例を考える」「議員立法の現状と課題」と題して、4つの市議会から報告がおこなわれた。

(視察の所感)

1、これまでの自民公明政治による「分権」の名によるいっそうの自治破壊、地方切捨てを許さず、財源を保障し、地方自治発展させることは地方自治体共通の課題です。

福祉・教育などへの国の責任放棄をやめさせ、地方財源を保障・拡充し、地方自治発展の土台を築くことは急務です。国の不当な地方支配の仕組みをなくすことです。道州制の導入とさらなる市町村再編はやめ、地方自治を守

り、発展させ、市民が主役となる地方行政はどうあるべきか急務な課題だと切実に感じたところです。

2、予算編成や施策の改善・拡充について、執行部と情報を共有し、すこしでも市民の役に立つものを市議会から積極的に提案できるように、常任委員会・特別委員会、各会派での調査・研究を深めていく必要がある。

会派としても、年度ごとに研究課題を設定し、施策提言をする準備活動も取り組んで生きたい。

3、議会基本条例にそった議会活動の改善、市民参加をどう構築していくのか。今後の大きな課題としてうけとめました。

4、市民の暮らし福祉に役立つ議員提案の条例制定のために、もっと調査研究を深めていく必要性を痛感した。

以上